

2021 年度（令和 3 年度）

事業報告及び決算書

自 2021 年（令和 3 年）4 月 1 日

至 2022 年（令和 4 年）3 月 31 日

東京都中央区日本橋小網町 3 番 11 号

一般財団法人日本醤油技術センター

目次

I	概要	
	1. 一般	1
	2. 重点活動	2
II	会議等	
	1. 理事会	5
	2. 評議員会	5
	3. その他	6
III	事業報告	
	1. 検定事業	6
	2. 調査・研究事業	9
	3. 検査事業	11
	4. 指導・育成事業	11
	5. 技術指導	12
	6. 表示指導	12
	7. 委員会等への参画	13
	8. マネジメント・レビューの状況と結果	14
	9. 独立行政法人農林水産消費安全技術センターによる調査の状況及び結果	14
	別表	16
	附属明細書	27
IV	計算書類	
	貸借対照表	28
	正味財産増減計算書	29
	財務諸表に対する注記	31
	附属明細書	32
	正味財産増減計算書（予算実績）	33
V	監査報告書	35
VI	役員等名簿	36

I 概要

1. 一般

我が国の経済は、昨年 9 月末までは大半が新型コロナの感染拡大を受けた緊急事態宣言下となり、東京五輪も無観客での開催で景気押し上げ効果も限定的となるなど景気の停滞が続き、緊急事態宣言の明けた 10 月以降は社会経済活動の段階的引き上げに伴い、個人消費の上向き、景気の持ち直しの動きがみられたものの、翌年初以降のオミクロン株の感染急拡大により再び下押し圧力が高まるといった 1 年でありました。

醤油業界においても、コロナ禍の影響によりしょうゆの出荷量の減少幅が大幅に拡大した 2020 年度に引き続き低迷が続き、加えて原材料価格やエネルギー価格の高騰など企業経営にとって非常に厳しい 1 年となりました。

このような中、輸出は和食ブームによる需要拡大等により数量で 22.7%増、金額で 21.7%増(いずれも 1~12 月前年比)と好調で、業界団体としてもジェトロによる輸出支援策説明会の開催、国内外各 1 回の展示会出展など輸出支援に取り組んでまいりました。

一方、しょうゆ加工品を含め、消費者ニーズに応えた高付加価値化、簡便化、小容量化への流れは引き続き堅調であり、業界団体としてもしょうゆ加工品類の出荷情報の充実化を図ってまいりました。

こうした中で、当センターも新型コロナウイルスの感染拡大のため、通常の業務が大きく影響を受ける状況となりましたが、そのような中、会議、研修会などを Web 化することにより、業務を遂行してまいりました。

重点活動としましては、(1) 技術サービス・支援の充実、拡大において、①HACCP 義務化への支援、②しょうゆの価値向上につながる新たな JAS の検討・実現、③品評会、研究発表会、技術雑誌などのプログラム、内容のブラッシュアップと活性化、④新規の Web 講習会(新入研修他)、標準色の販路拡大等の実施による新たな事業収入の創出、(2) コミュニケーション・情報発信力において、関係省庁(農林水産省、消費者庁、厚生労働省、文部科学省等)とのコミュニケーションの強化、(3) 生産性向上において、①業界活動の Web 化、②業務のデジタル化を行いました。

また、これら重点活動とともに、認証業務を中心に従来の業務についても実施してまいりました。令和 3 年度の活動は以下のとおりです。

2. 重点活動

(1) 技術サービス・支援の充実、拡大

ア 改正食品衛生法（HACCP 義務化等）6 月完全実施への対応支援

手引書による周知徹底を図り、組合及び JAS 審査員より対応状況を確認、フォローアップを実施しました。

イ HACCP 対応を含む既存 JAS・検査業務の適正な遂行としょうゆの価値向上につながる新たな JAS の検討・実現

(ア) HACCP-JAS は、JAS 認証基準の改正として 4 月 1 日施行に対応しました。

(イ) しょうゆの価値向上につながる新たな JAS の検討・実現

- ① 事業者より提案のあった天然醸造（いわゆる諸味の温度コントロールを人為的に行わないもの）、蓋麹や木桶熟成などを守り継承してきた伝統製法について、消費者や実需者への認知と理解の促進を図るための方策の検討を開始しました。また提案と需要等を把握するため、全組合員を対象に「しょうゆ製造の「こだわり」に関するアンケート調査」を実施し、その結果を受けて新 JAS 化に代わる新たな提案準備を進めました。
- ② 海外において、日本のしょうゆと海外製法のしょうゆとの区分を目的とした JAS 規格化の検討のため、海外展開の事業者及び同様の提案を行っている、全国味噌工業協同組合連合会等へのヒアリングを実施し、提案準備を進めました。

ウ 品評会、研究発表会、技術雑誌などのプログラム、内容のブラッシュアップと活性化

(ア) 全国醤油品評会

品評会は審査員が東京へ集まらずに審査できるよう第一次審査はブロック別に開催しました。北海道・東北ブロックは福島県味噌醤油工業協同組合で、関東甲信越ブロックは醤油会館で、九州ブロックは福岡県醤油工業協同組合で開催し、使い捨てカップの使用や、会場に審査員が集中しないように時間差で審査を行うなどの感染対策をとって実施しました。また、他のブロックにあっては、ブロック内であっても集まることが難しいとの判断から、審査員へ個別にサンプルを配布して実施しました。第二次審査は一次審査を通過したサンプル 50 本を 36 名の審査員全員へ配布して実施しました。

(イ) 醤油研究発表会

研究発表会はオンラインで開催しました。また、オンライン開催のメリットを出すために、開催期間を 12 日間とし、何度でも視聴でき、また質問も受けられるようにしました。

(ウ) 技術雑誌

「醤油の研究と技術」においては、第 47 巻第 2 号（5 月 25 日発行）から、雑誌の大きさを従来の B5 サイズから A4 サイズに拡大して、より読みやすい誌面づくりを目指すとともに、Web 版の更なる普及を推進しました。

エ 新規の Web 講習会（新入研修他）、標準色の販路拡大等の実施による新たな事業収入の創出

（ア）新規の Web 講習会にあつては、「醤油製造の基本技術」及び「表示」に関して、来年度実施するための準備を開始しました。また、表示の基礎講習のテキストとして「しょうゆの表示テキスト」の改訂作業を開始しました。

（イ）標準色の販路拡大については、各種展示会や雑誌広告の掲載などを検討しました。

（2）コミュニケーション・情報発信力

ア 食品産業センター等と連携しながら、関係省庁（農林水産省、消費者庁、厚生労働省、文部科学省等）とのコミュニケーションの強化

（ア）農林水産省

中国の国家基準に基づく混合醤油の規制及び中国向け輸出食品の製造等企業登録に係る規制等の情報収集及び情報提供を行いました。

また、農林水産省 消費・安全局から「しょうゆ及びアミノ酸液中のクロロプロパノール類の含有実態調査について」の協力依頼があり、調査対象事業者への協力依頼、試料容器及びアンケートの送付、調査対象事業者からの試料及びアンケートの回収、分析機関への試料提出、試料情報及びアンケートのとりまとめ等、について協力を行いました。

（イ）消費者庁

表示の弾力的運用に関して、インド製造脱脂加工大豆の入手が再び困難な状況が起きていることから、再度、オンライン会議により状況の説明と弾力的運用継続を要望しました。

また、原料原産地表示の「又は表示」の注意書きに関して、事業者からの問い合わせについてオンライン会議により、問い合わせの内容を伝え、それに対する回答を得ました。

（ウ）文部科学省

「日本食品標準成分表の改訂に向けた食品成分情報取得強化のための調査」に関する技術審査員を依頼され、審査に参画しました。

（3）生産性向上

ア 業界活動の Web 化

理事会・評議員会、各種委員会、会議、セミナー他、Web 環境の整備、事前の資料配布等により、質を落とさずに、対面の会合の回数を減らす（ただし必要な頻度は確保する）

（ア）理事会・評議員懇談会については、対面での参加希望もあったことから、対面と Web の併用で開催しました。

（イ）表示等委員会、安全・安心（技術）委員会及び雑誌編集委員会については、Web で開催し、資料はすべて事前に配布しました。

(ウ) 日本醤油技術賞選考委員会については、Web で開催し、資料はすべて事前に配布し、また選考の投票も Web にて行いました。

(エ) 専門講習会及び格付検査担当者技能研修会については、新任者向けと継続者向けにプログラムを分けて開催しました。新任者向けを対面開催、継続者向けを Web 開催とする予定でしたが、新型コロナの感染防止措置を受けて、全て Web 開催に変更して実施しました。

なお、使用する資料は原則、紙での配布を廃止しペーパーレス化を進めました。

イ 業務のデジタル化 (Gyokai Digital Project)

上記の活動の推進及び団体の事務、資料、保管書類の標準化や電子化

(ア) 生産月報など組合からの報告、変更届、「出前授業」申込、標準色購入申込、講習会受講申込及び研究発表会参加申込等のデジタル化を図りました。また、保管資料の電子データ化を引き続き進めました。

(イ) 今後、さらなるデジタル化を進めるため、既にデジタル化した業務について属人化を解消するとともに、事業者や審査員の利便性を高めることを目的に醤油技術センターのホームページを見直し、依頼分析、講習会、研修会等の申込から実施に至る手続きを、担当者自らが実施可能となるよう見直しを行いました。

Ⅱ 会 議 等

1. 理事会

回	開催年月日	開催場所	主な議事内容
1	理事会 Web 併用会議 令和3年5月21日	醤油会館 2階会議 室	<p><議題></p> <p>第1号議案 事業報告及び計算書類の承認について</p> <p>第2号議案 定時評議員会の招集及び提案議題について</p> <p style="padding-left: 2em;">①事業報告及び計算書類の承認</p> <p style="padding-left: 2em;">②評議員の選任</p> <p style="padding-left: 2em;">③理事及び監事の選任</p> <p>第3号議案 認証業務規程の改正について</p> <p>第4号議案 臨時理事会の開催について</p>
2	臨時理事会 みなし会議 決議日 令和3年6月15日	—	<p><議題></p> <p>第1号議案 理事及び監事の改選に伴う代表理事の選定について</p> <p>第2号議案 専務理事の選定について</p>
3	理事会 Web 併用会議 令和3年11月11日	醤油会館 2階会議 室	<p><報告事項></p> <p>(1) 業務執行理事の職務執行状況の報告について</p>
4	理事会 Web 併用会議 令和4年3月17日	醤油会館 2階会議 室	<p><議題></p> <p>第1号議案 事業計画及び予算の承認について</p> <p><報告事項></p> <p>(1) 業務執行理事の職務執行状況の報告について</p>

2. 評議員会

回	開催年月日	開催場所	主な議事内容
1	評議員懇談会 Web 併用会議 令和3年5月21日	醤油会館 2階会議 室	<p><報告事項></p> <p>(1) 事業報告及び計算書類の承認について</p> <p>(2) 定時評議員会の招集及び提案議題について</p> <p style="padding-left: 2em;">①事業報告及び計算書類の承認</p> <p style="padding-left: 2em;">②評議員の選任</p> <p style="padding-left: 2em;">③理事及び監事の選任</p> <p>(3) 認証業務規程の改正について</p> <p>(4) 臨時理事会の開催について</p>
2	評議員会 みなし決議 決議日	—	<p><議題></p> <p>第1号議案 事業報告及び計算書類の承認</p> <p>第2号議案 評議員の選任</p>

	令和3年6月15日		第3号議案 理事及び監事の選任
3	評議員懇談会 Web 併用会議 令和4年3月17日	醤油会館 2階会議 室	<報告事項> (1) 事業計画及び予算の承認について (2) 業務執行理事の職務執行状況の報告について

3. その他

本部団体連絡協議会

回数	開催年月	開催場所	主な議事内容
毎月 1回	令和3年4月～ 令和4年3月	醤油会館	(1) 醤協ニュースについて (2) 団体別報告事項について

Ⅲ 事業報告

1. 検定事業

(1) 認証事業

ア 審査員の委嘱

審査員を別表1のとおり委嘱しました。

イ 認証の申請に係る審査及び確認調査の実施

日本農林規格等に関する法律第19条2項の規定に基づく業務を実施しました。結果は次の通りです。

(ア) 認証工場数の増減（農林水産省届出件数）

令和3年度の増減は、下表の通り。詳細は別表2～3の通りです。

令和3年4月1日 認証工場数	新規認証	廃止	取消	令和4年3月31日 認証工場数
481件	3件	17件	0件	467件

(イ) 認証の申請に係る審査

日本農林規格等に関する法律施行規則第46条第1項1号の基準に基づく業務を実施しました。結果は次の通りです。

申請受理件数	審査数	判定結果	認証事業者名	住所	農林物資の種類
3件	3件	合3件 否0件	別表2と同じ		しょうゆ

(ウ) 認証後の定期確認調査

日本農林規格等に関する法律施行規則第 46 条第 1 項 2 号の基準に基づく業務を実施しました。なお、継続中には、報告処理中と 4 月以降予定(24 工場)を含みます。

令和 3 年 4 月 1 日 認証工場数	中止 (廃止及び廃止予定等)	被災による 休止	調査継続中 工場	令和 4 年 3 月 31 日 完了数
481 件	12 件	2 件	73 件	398 件

ウ 審査員の適正な業務の推進

JAS 関連法規や公正な審査の方法及び知識について研修し、審査員としてのレベルの向上・平準化、認識強化及び情報の共有化を図るため、下記研修を実施しました。

なお、新型コロナウイルスの感染防止措置を受けて一部開催方法を変更して実施しました。

(ア) ブロック別審査員研修会

ブロック研修を下表のとおり実施した。詳細は別表 4 の通りです。

名称及び開催時期	目的	概要
春季審査員及び表示 指導員合同研修会 令和 3 年 7 月	本年度の審査及び指導方針と実施方法について具体的に説明し、最終確認を行う	1.審査体制について 2.スケジュール 3.2021 年度 調査実施要領による重点事項の説明と共有 4.2021 年度チェックリストの説明と質疑応答
秋季審査員研修会 令和 3 年 12 月	本年度の審査進捗状況と問題点の摘出と共有、今後の審査員体制について検討	1.調査の進捗と問題点について 2.これからの審査員の体制について 3.報告事項 4.その他意見交換

(イ) 指導審査員研修会

審査員の審査技量の向上と課題に基づく審査実施方針や研修の企画等の検討を行うため、指導審査員研修会を Web を活用し下記の通り実施しました。

日時	目的	概要
令和 3 年 6 月 7 日 13:00～16:00	本年度の審査及び指導方針と実施方法について具体的に説明し、確認を行い、地区別の審査員への研修課題の摘出と共有	1.今年度の年間計画(案)について 2.今年度の調査実施要領について 3.今年度のチェックリストについて 4.リモート調査の実施について
令和 3 年 11 月 9 日 9:30～12:30	本年度の進捗状況の把握と問題点の摘出及び地区別審査員研修の課題の共有	1.前年度調査の結果及び問題点の摘出 2.今年度指導審査員の業務について 3.今年度審査員中央研修の進め方について 4.次年度事業計画について

令和4年2月3日 13:00～15:30	本年度の審査の問題点の共有と次年度の重点事項及び調査実施要領の作成並びに中央研修会の研修課題等の検討	1.今年度審査の進捗と今後の予定の報告 2.HACCP 対応状況などの報告 3.実施上の問題点の共有 4.リモート調査の実施方法の説明 5.来年度の調査実施方法の協議 6.中央研修の議題の協議 7.「伝統的醤油」品評会の協議
-------------------------	--	--

(ウ) 新審査員特別研修会

日時	目的	概要
令和3年6月29日 13:30～16:30 Web 開催と録画講義	本年度新たに就任した審査員への業務の周知徹底	1.審査体制の説明 2.JAS 関係法規について ① JAS 法の解説 ② ISO/IEC GUIDE65 の解説 ③ しょうゆの JAS 規格の解説 ④ 測定方法の解説 3.しょうゆの認証の技術的基準について 4.新規認証に係る審査及び確認調査等の実施について

(エ) 審査員等中央研修会

日時	目的	概要
令和4年3月2日 13:00～16:00 3月3日 10:00～16:00 Web 開催	今年度の審査の報告と結果の共有、次年度の重点課題の確認	1. 業界の概況について 2. 今年度調査結果及び来年度調査実施方針(案)について 3. 認証の技術的基準の解説 4. グループワーク 5. 表示の基礎知識 6. 報告事項 (表示の最新状況) (安全・安心関係)

(オ) 新任者実地研修会

新任者は既存の審査員の定期審査に同行した後、最初の定期審査に指導審査員等が同行し、現場での審査について指導を受けました。対象の新任者は以下3名です。

紅林孝幸(福島県担当)、宮下峯雄(長野県担当)、池田 香(滋賀県担当)

(カ) 外部研修等

外部の研修会に積極的に参加して、業務の研修及び意識向上に努めました。参加した外部の研修は別表5の通りです。

(キ) 審査員に対する内部監査の実施結果

審査員に対し指導審査員（指導審査員に対しては管理責任者）が内部監査を実施しました。この監査において不適合事項は検出されませんでした。

(2) 登録事業

ア 格付のための試料の検査を委託する第三者検査機関の登録

(ア) 登録

現在、登録している機関は、全 37 機関。詳細は別表 6 のとおりです。

(イ) 外部監査

第三者検査機関の登録維持の為、1 箇所実施し、適合でした。

検査機関名	監査年月日	審査員名
愛知県味噌溜醤油工業協同組合	令和 3 年 11 月 24 日	水村津与志

(ウ) 格付の検査に係る技能試験

格付のための試料の検査を委託する第三者検査機関及び格付のための検査を自ら行う工場に対して分析技能評価のため試験を実施しました。

イ 公認官能検査員認証試験の実施状況

前年度末 登録人員	5,955 名
本年度 合格者	87 名
本年度末 登録人員	6,042 名

ウ 基準品審査会の開催

審査員を集めて基準品審査会を開催することができなかったため、各事業者の公認官能検査員有資格者が、前年度の自らの基準品と比較して審査をしました。そこで合格したもののについて、さらに本部で官能評価による確認をする形で実施しました。実施期間は 11 月 1 日から 11 月 30 日まで。審査の結果は別表 7 の通りです。

(3) 標準色セット等の頒布

認証工場、検査機関及び他製造・流通事業者等がしょうゆの色度測定をするための、しょうゆ標準色セットの製造と頒布を実施しました。

令和 4 年 3 月末現在 1,411 セット

2. 調査・研究事業

(1) 研究発表会事業

第 90 回醤油研究発表会

研究発表会はオンラインで開催しました。また、オンライン開催のメリットを出すために、開催期間を 12 日間とし、何度でも視聴でき、また質問も受けられるようにしました。

(2) 品評会、技術賞等の運営支援

ア 第48回全国醤油品評会

(ア) 審査

(第一次審査)

北海道東北ブロック：令和3年7月2日（金）福島県味噌醤油工業協同組合にて開催。

ただし、審査員5名中2名にはサンプルを送付して実施

関東甲信越ブロック：令和3年7月8日（木）醤油会館にて開催

東海北陸ブロック、近畿ブロック、中国ブロック、四国ブロック：

令和3年7月7日（水）～7月13日（火）の間、各審査員にサンプルを送付して実施

九州ブロック：令和3年7月15日（木）福岡県醤油工業協同組合にて開催

ただし、審査員5名中1名にはサンプルを送付して実施

(第二次審査)

令和3年7月26日（月）～7月30日（金）の間、各審査員へサンプルを送付して実施

(イ) 出品数 総出品数：268点

a 種類別の内訳：こいくち168点、うすくち47点、たまり13点、さいしこみ35点、しろ5点

b JAS格付品：185点（特級146点、上級34点、標準5点）

c 非JAS品：83点

受賞の結果は、別表8の通りです。

イ 令和3年度日本醤油技術賞

日本醤油技術賞選考委員会については、Webで開催し、資料はすべて事前に配布しました。また選考の投票もWebにて行いました。

(3) 技術雑誌発行事業

ア 技術雑誌『醤油の研究と技術』の原稿依頼・編集・発行

令和3年度は季刊号として5月、8月、11月、2月に発行しました。

イ 主な内容（別表9に記載）

ウ 発行部数 772部（うちWeb版188部を含む）（昨年度792部）

エ 企画編集会議

回	開催日	主な議題
237	2021年8月18日	1) 技術賞選考委員会の運営について 2) 研究発表会について 3) 第47巻4号、第48巻1,2号の編集企画について
238	2022年1月19日	1) 編集委員会の今後の体制について

	2) 研究発表会の計画について 3) 技術賞授賞規程、実施要領の改定について 4) 表紙デザインのリニューアルについて 5) 次号（第48巻1号）以降の編集企画について
--	---

オ Web版の刊行

第46巻2号からWeb版での購読を開始するとともに、バックナンバーについてもWeb上での閲覧を可能としました。

(4) 市販醤油分析

市販醤油の分析を行いました。分析結果は別表10の通りで、令和3年3～4月および令和3年9～10月に製造された代表的銘柄9点の最高値、最低値及び年間の平均値です。

3. 検査事業

(1) 格付に関する検査

受託した格付に関する検査について、次の通り行いました。

検査点数 910件

(2) 品質管理等に係る分析

受託した品質管理等に係る分析について、次の通り行いました。

分析点数 699件（うち、栄養成分分析70件を含む）

4. 指導・育成事業

(1) 講習研修事業

認証工場に必要な資格取得のための講習会及び研修会を以下の通り開催しました。

ア 品質管理専門講習会

(ア) しょうゆの認証工場品質管理専門講習会について次のとおり実施しました。

a 新任者向け

第1回は対面開催を予定していたが新型コロナの感染防止措置を受けてWeb開催に変更しました。

回	開催年月日	場所	修了者数
1	令和3年9月16日～令和3年10月7日	Web	41
2	令和4年2月17日～令和4年3月9日	Web	17

b 継続者向け

回	開催年月日	場所	修了者数
1	令和4年1月18日～令和4年2月4日	Web	218

(イ) 品質管理専門講習会課題、講師等は別表 11 の通りです。

イ 格付技能研修会

(ア) 格付検査担当者技能研修会について次のとおり実施しました。

a 新任者向け

新任者向けは、対面開催を予定していたが新型コロナウイルスの感染防止措置を受けて Web 開催に変更。併せて開催日時も変更しました。

回	開催年月日	場所	修了者数
1	令和 3 年 11 月 26 日～令和 3 年 12 月 15 日	Web	19

b 継続者向け

回	開催年月日	場所	修了者数
1	令和 4 年 7 月 15 日～令和 3 年 7 月 27 日	Web	25

(イ) 格付検査担当者技能研修会課題、講師等は別表 11 の通りです。

5. 技術指導

(1) 講師派遣

新型コロナウイルスの影響で、今年度はありませんでした。

6. 表示指導

(1) 表示指導員の委嘱

表示指導員を 4 月 1 日付けで別表 12 のとおり委嘱しました。

(2) しょうゆの表示等の指導

表示指導業務として各県表示指導員に対する、表示に関する研修会を以下のように行いました。

ア ブロック別表示指導員研修会

各ブロックごとに研修を行いました。各ブロックの詳細は別表 13 の通りです。

開催日	概要
令和 3 年 7 月 9 日 ～ 7 月 28 日	1. 表示に関する最新情報等 1) 食品表示法に基づく自主回収の届出について 2) 「食品表示基準 Q&A」の一部改正について 3) 新たな遺伝子組換え表示制度に関する公定検査法の概要について 4) 食品添加物の不使用表示に関するガイドライン検討会(第

	1回) について 5) 食品添加物の不使用表示に関するガイドライン検討会(第2回) について 6) 表示及び HACCP 対応一覧表 2. 表示指導について 1) 原料原産地表示の義務化
--	---

イ 表示指導員中央研修会

開催日時	概要
令和4年3月4日 14:00~17:00 Web 開催	1. 醤油業界の現状 2. 表示関係 1) 年間スケジュールなど 2) 原料原産地表示について 3) 遺伝子組換え表示について 4) 食品添加物の不使用表示について 5) 表示対応一覧表について 3. 規格関係 4. 安全・安心関係

(3) 醤油業公正取引協議会及び日醬協の表示・技術部と連携し表示指導等の実施
 新型コロナウイルスの影響で、今年度の表示検査会は中止となりました。

(4) 表示に関する研修会等への講師派遣
 新型コロナウイルスの影響で、今年度はありませんでした。

7. 委員会等への参画

(1) 表示等委員会

標記委員会に般若専務理事、加藤常務理事、松本理事および水村次長が事務局として参画し、資料作成、議事進行を担当しました。

回	開催日	主要議題
第27回	令和3年5月19日	報告 1) しょうゆの日本農林規格の定期見直しについて 2) 遺伝子組換え表示制度改正について 3) 製造所固有記号の更新について 4) 表示の弾力的運用について 5) 日本食品標準成分表 2020年版(八訂)について

		6) 食品表示違反製品の対応について 7) 食品添加物の不使用表示に関するガイドライン 検討会について 8) 表示及び HACCP 対応一覧表 議題 新たな JAS 規格 (適温醸造しょうゆ) について
--	--	--

(2) 安全・安心 (技術) 委員会

標記委員会に般若専務理事、加藤常務理事、松本理事、葛西参与が事務局として参画し、資料作成、議事進行を担当しました。

回	開催日	主要議題
第 22 回	令和 4 年 1 月 12 日	1) 農水省のクロロプロパノール類の含有実態調査への協力について 2) 食品衛生法改正に伴う営業許可・営業届出制度の変更について 3) 各種規制等の違反事例について 4) その他報告事項 2 件

(3) 外部委員等

詳細は、別表 14 の通りです。

(4) 農林水産省及び日本農林規格協会等における催しに協力し、しょうゆの展示、パンフレット等の配布を行いました。

(5) マスコミ、消費者団体等のしょうゆに対する照会に対し資料提供を行いました。

8. マネジメント・レビューの状況と結果

認証機関として、マネジメント・レビューを実施し、指示に対する是正処置報告をしました。

部門	マネジメント・レビュー 結果と指示	是正報告
認証業務	認証業務の適切な運用を行うために必要な資源を手当てすること。	製品検査部門の担当者の欠員補充を新年度より実施予定。主として分析業務を行うこととする。

9. 独立行政法人農林水産消費安全技術センターによる調査の状況及び結果

ア 事業所調査

調査の概要：令和 3 年 12 月 14 日及び令和 3 年 12 月 15 日に実施したところ、不適合は認められませんでした。

イ 製品検査施設調査

調査の概要：令和3年12月14日及び令和3年12月15日に実施したところ、不適合は認められませんでした。

ウ 立会調査

令和3年3月23日から令和4年2月22日までの実施件数：5件

エ 格付品検査

令和3年3月23日から令和4年2月22日までの実施件数：36件

オ 現地調査

令和3年3月23日から令和4年2月22日までの実施件数：0件

別表1 審査員名簿

組合	審査員	組合	審査員	組合	審査員	組合	審査員
北海道	石川一雄	千醤	(田中正男)	滋賀	池田 香	香川	末澤保彦
青森	岩崎千穂	中央	(本部担当)	京都	(滝本芳男)	小豆島	末澤保彦
岩手	畑山 誠	山梨	(本部担当)	中央(大阪)	(滝本芳男)	愛媛	(本部担当)
宮城	高橋 清	長野	宮下峯雄	兵庫	滝本芳男※	高知	(本部担当)
秋田	尾張かおる	新潟	日山成子	龍野	(滝本芳男)	福岡	中尾俊雄
山形	清野義夫※	富山	玉島めぐみ	奈良	(滝本芳男)	佐賀	小金丸和義
福島	宮崎久重	石川	松岡清司	和歌山	(滝本芳男)	長崎	林田眞二郎
福島	紅林孝幸	福井	宮越富子	鳥取	(山崎幸一)	熊本	松田茂樹※
茨城	(本部担当)	岐阜	(富田茂夫)	島根	山崎幸一※	大分	(本部担当)
栃木	(田中正男)	静岡	(富田茂夫)	岡山	山崎美和	宮崎	水谷政美
群馬	(本部担当)	愛知	富田茂夫※	広島	河村大造	鹿児島	日高 修
埼玉	奥澤洋平	三重	望月 豊	山口	柏木 享		
千葉	田中正男※	滋賀	横田邦夫	徳島	山本澄人		

※指導審査員

別表2 令和3年度 新規認証

当該認証に係る者の氏名又は名称及び所在地		当該認証に係るほ場、工場若しくは事業所の名称及び所在地又は流通行程並びに当該流通行程における生産業者等の氏名若しくは名称及び住所		当該認証に係る認証番号	当該認証の年月日
申請者の氏名又は名称	所在地	事業所の名称	所在地		
国田屋醸造 大松佳子	福島県二本松市 竹田2丁目30	国田屋醸造	福島県二本松市 竹田2丁目30	NST-07-028	令和3年12月23日
株式会社立本 醤油	広島県東広島市 志和町奥屋 2362-2	株式会社立本 醤油	広島県東広島市 志和町奥屋 2362-2	NST-35-025	令和3年12月23日
岡本醤油醸造 場株式会社	広島県豊田郡大 崎上島町東野 2577	岡本醤油醸造 場	広島県豊田郡大 崎上島町東野 2577	NST-35-026	令和4年3月22日

別表3 令和3年度 廃止

当該廃止に係る者の氏名又は名称及び所在地		当該廃止に係るほ場、工場若しくは事業所の名称及び所在地又は流通行程並びに当該流通行程における生産業者等の氏名若しくは名称及び住所		当該廃止に係る認証番号	当該廃止の年月日
申請者の氏名又は名称	所在地	事業所の名称	所在地		

三浦醤油店	秋田県潟上市天王字上江川 47-502	三浦醤油店	秋田県潟上市天王字上江川47-502	NST-05-018	令和3年2月1日
ヤマハ醤油醸造株式会社	広島県広島市安佐南区大町東三丁目31-25	ヤマハ醤油醸造株式会社	広島県広島市安佐南区大町東三丁目31-25	NST-35-014	令和3年5月14日
有限会社藤庄	愛媛県今治市南大門町3丁目1-5	有限会社藤庄	愛媛県今治市南大門町3丁目1-5	NST-40-007	令和3年5月10日
児玉醸造有限公司	鹿児島県肝属郡東串良町川東4004番地	児玉醸造有限公司	鹿児島県肝属郡東串良町川東4004番地	NST-48-007	令和2年9月30日
西海醤油株式会社	兵庫県明石市魚住町金ヶ崎1705番地	西海醤油株式会社	兵庫県明石市魚住町中尾 147	NST-28-013	令和3年3月31日
三国醤油醸造場	広島県庄原市西本町3-4-5	三国醤油醸造場 三玉浩正	広島県庄原市西本町3-4-5	NST-35-009	令和2年12月15日
株式会社諸井醸造	秋田県男鹿市船川港船川字化世沢176番地	株式会社諸井醸造	秋田県男鹿市船川港船川字化世沢176番地	NST-05-020	令和3年9月30日
左海醤油工業株式会社	香川県小豆郡小豆島町苗羽甲2125	左海醤油工業株式会社	香川県小豆郡小豆島町苗羽甲2125	NST-39-006	令和3年10月1日
鈴木醤油店 鈴木英司	福島県岩瀬郡天栄村大字牧之内字矢中 2	鈴木醤油店	福島県岩瀬郡天栄村大字牧之内字矢中 2	NST-07-027	令和3年9月30日
株式会社幡谷本店	茨城県小美玉市中延488	株式会社幡谷本店	茨城県小美玉市中延488	NST-08-007	令和3年9月30日
有限会社フクビシ	福岡県福岡市西区周船寺3丁目24番6号	有限会社フクビシ	福岡県福岡市西区周船寺3丁目24番6号	NST-42-018	令和3年6月30日
鎌田醤油株式会社	香川県坂出市本町 1-6-35	鎌田醤油株式会社 本社工場	香川県坂出市本町 1-6-35	NST-38-001	令和3年9月30日
国田屋醸造 大松良子	福島県二本松市竹田2丁目30	国田屋醸造	福島県二本松市竹田2丁目30	NST-07-026	令和3年12月22日
立本醤油醸造場 立本彰	広島県東広島市志和町奥屋2362-2	立本醤油醸造場	広島県東広島市志和町奥屋2362-2	NST-35-023	令和3年12月22日
株式会社山尾本店	島根県大田市久手町波根西172	株式会社山尾本店	島根県大田市久手町波根西172	NST-33-022	令和4年3月20日
山近醤油醸造場 山近貞正	岡山県岡山市東区瀬戸町大井200	山近醤油醸造場 山近貞正	岡山県岡山市東区瀬戸町大井200	NST--005	令和4年3月31日

岡本醤油醸造 場 岡本義弘	広島県豊田郡大 崎上島町東野 2577	岡本醤油醸造 場 岡本義弘	広島県豊田郡大 崎上島町東野 2577	NST-35- 008	令和4年3月24 日
------------------	---------------------------	------------------	---------------------------	----------------	---------------

別表4 ブロック別審査員会議

①春季審査員及び表示指導員合同研修会

ブロック	開催日	場所 又は開催方法	JAS 審査員 (※指導審査員)	本部出席者
北海道 東北	令和3年7月13日	Web 会議	石川一雄、岩崎千穂、畑山 誠、高橋 清、尾張かおる、 ※清野義夫、紅林孝幸、宮崎 久重	松本、水 村、加藤
関東 甲信越	令和3年7月26日	Web 会議	奥澤洋平、※田中正男、宮下 峯雄、日山成子	全員
東海 北陸	令和3年7月15日	Web 会議	玉島めぐみ、松岡清司、宮越 富子、※富田茂夫、望月 豊	松本、水 村、加藤
近畿	令和3年7月14日	Web 会議	※滝本芳男、横田邦夫、池田 香	松本、水 村、加藤
中国	令和3年7月27日	Web 会議	※山崎幸一、山崎美和、河村 大造、柏木 享	松本、水 村、加藤
四国	令和3年7月28日	Web 会議	※山崎幸一、山崎美和、河村 大造、柏木 享	松本、水村
九州	令和3年7月9日	熊本県みそ醤油工業 協同組合 5F 会議室	中尾俊雄、林田眞二郎、※松 田茂樹、水谷政美、日高 修	松本、加藤

②秋季審査員研修会（一部ブロックは保留及び次年度繰り越しました。）

ブロック	開催日	場所 又は開催方法	JAS 審査員 (※指導審査員)	本部出席者
関東 甲信越	令和3年12月20 日	醤油会館 2F 会議室 (一部 Web 参加)	奥澤洋平、※田中正男、宮下 峯雄、日山成子	全員
近畿	令和3年12月16 日	TKP ガーデンシティ 大阪リバーサイドホ テル	※滝本芳男、横田邦夫、池田 香	松本、水村
中国	令和3年12月22 日	Web 会議	※山崎幸一、山崎美和、河村 大造、柏木 享	松本、水村
九州	令和3年12月3日	熊本県みそ醤油工業 協同組合 5F 会議室	中尾俊雄、林田眞二郎、※松 田茂樹、水谷政美、日高 修	般若、松 本、水村

別表5 外部研修等

名称	開催年月日	場所等	受講者
総研研究会 醸造食品部会 リモート工場見学	令和3年10月13日	Web	関根悠太、 櫻井馨梨

ソルトサイエンスシンポジウム	令和3年11月1日～7日	Web	松本秀樹
総研研究会 醸造食品部会 リモート工場見学	令和4年2月25日	Web	松本秀樹、 関根悠太、 櫻井馨梨
総研研究会 おいしさ研究部会	令和4年3月29日	東京農業大学世田 谷代田キャンパス	松本秀樹
JAS 法改正説明会	令和4年3月31日	Web	松本秀樹
JAS 協会 連絡協議会	令和4年1月13日	フクラシア東京ス テーション	関根悠太
FOODEX JAPAN	令和4年3月8日～11日	幕張メッセ	松本秀樹、 関根悠太

別表6 第三者検査機関

第三者検査機関名	第三者検査機関名	第三者検査機関名
北海道味噌醤油工業協同組合	福井県醤油味噌工業協同組合	徳島県醤油醸造協同組合
青森県醸造食品工業協同組合	岐阜県味噌醤油工業協同組合	香川県醤油工業協同組合
岩手県味噌醤油工業協同組合	愛知県味噌溜醤油工業協同組合	小豆島醤油協同組合
宮城県味噌醤油工業協同組合	三重県醤油味噌工業協同組合検査所	愛媛県味噌醤油協同組合検査所
秋田県味噌醤油工業協同組合	滋賀県醤油工業協同組合検査所	福岡県醤油工業協同組合福岡県醤油検査所
山形県醤油味噌工業協同組合	中央醤油工業協同組合大阪地区検査所	佐賀県味噌醤油醸造協同組合
福島県味噌醤油工業協同組合	兵庫県醤油工業協同組合	長崎県味噌醤油協同組合検査所
群馬県醤油味噌工業協同組合	龍野醤油協同組合	熊本県みそ醤油組合検査所
埼玉醤油工業協同組合検査所	鳥取県味噌醤油工業協同組合	大分県味噌醤油工業協同組合
千葉県醤油工業協同組合	島根県醤油工業協同組合検査所	宮崎県味噌醤油工業協同組合検査所
新潟県味噌醤油工業協同組合	岡山県醤油工業協同組合	鹿児島県味噌醤油工業協同組合鹿児島検査所
富山県醤油味噌工業協同組合	広島県醤油協同組合連合会	
石川大野醤油協同組合	山口県味噌醤油協同組合	

別表7 基準品審査 審査結果

種類	種別	第三者機関 出品点数	Aシステム認証 工場出品点数	採点結果(点)	
				適	不適
こいくち	本醸造 特級	23	55	78	0
	混合醸造 上級	0	0	0	0
	混合 上級	1	0	1	0
うすくち	本醸造 特級	12	38	50	0
	本醸造 上級	0	0	0	0
	混合醸造 上級	1	0	1	0
たまり	混合 上級	9	6	15	0
	本醸造 特級	4	12	16	0
さいしこみ	本醸造 特級	12	26	38	0
	混合醸造 特級	2	0	2	0
	混合 上級	1	2	3	0

し ろ	本醸造 特級	2	4	6	0
	本醸造 上級	0	1	1	0
	混合 上級	1	0	1	0
合 計		68	144	212	0

別表8 全国醤油品評会受賞者一覧

① 「農林水産大臣賞」受賞5点

受賞者名	出品財名(銘柄)	都道府県名	部門名(品目)
福岡県醤油醸造協同組合	ふくおか	福岡県	こいくちしょうゆ
日本醤油工業株式会社	キッコーニホン 特級	北海道	こいくちしょうゆ
佐伯醤油有限公司	まるさ 特選 本醸造	広島県	こいくちしょうゆ
有限会社今野醸造	芳醇	宮城県	こいくちしょうゆ
菱太産業株式会社	太田屋 白醤油 超特選	愛知県	しろしょうゆ

② 「農林水産省大臣官房長賞」受賞10点

受賞者名	出品財名(銘柄)	都道府県名	部門名(品目)
マルヨシ醤油株式会社	まるよし	福岡県	こいくちしょうゆ
林合名会社	イゲタ 特級しょうゆ	福島県	こいくちしょうゆ
合資会社亀兵商店	キジョウこいくち本醸造 特級しょうゆ	宮城県	こいくちしょうゆ
橋本醤油株式会社	本醸造醤油	熊本県	こいくちしょうゆ
川中醤油株式会社	濃口 宝	広島県	こいくちしょうゆ
下津醤油株式会社	特級 利兵衛	三重県	こいくちしょうゆ
上ホ醤油株式会社	ジョーホ	茨城県	こいくちしょうゆ
ヤマボシ醤油合名会社	ヤマボシ醤油 吟上	福島県	こいくちしょうゆ
キッコーマン食品株式会社 野田工場	キッコーマンいつでも新鮮 超特選二段熟成生しょうゆ	千葉県	さいしこみしょうゆ
ヒガシマル醤油株式会社	うすくちしょうゆ	兵庫県	うすくちしょうゆ

③ 「優秀賞」受賞35点

受賞者名	出品財名(銘柄)	都道府県名	部門名(品目)
有限会社今野醸造	吟 醸	宮城県	こいくちしょうゆ
マルマン醸造株式会社	マルマン本醸造醤油	福島県	こいくちしょうゆ
内池醸造株式会社	キッコーツル 特選醤油	福島県	こいくちしょうゆ
有限会社若喜商店	ワカキ醤油	福島県	こいくちしょうゆ
キッコーマン食品株式会社 野田工場	キッコーマンいつでも新鮮 特選しょうゆまるやか発酵	千葉県	こいくちしょうゆ
株式会社丸正醸造	特 濃	長野県	こいくちしょうゆ
株式会社星野本店	蔵 元	新潟県	こいくちしょうゆ
新潟醤油株式会社	ジマン うす塩	新潟県	こいくちしょうゆ
⑤ 齊藤醤油味噌醸造店	宝 生	新潟県	こいくちしょうゆ

株式会社越のむらさき	富士	新潟県	こいくちしょうゆ
城端醤油株式会社	キッコージョー醤油 優選	富山県	こいくちしょうゆ
大野醤油醸造協業組合	丸大豆しょうゆ	石川県	こいくちしょうゆ
大醬株式会社	新生	大阪府	こいくちしょうゆ
株式会社ヤマヒサ	花 醬	香川県	こいくちしょうゆ
金大醤油株式会社	搾りたて「こいくち醤油」	香川県	こいくちしょうゆ
マルエ醤油株式会社	野 菊	福岡県	こいくちしょうゆ
松合食品株式会社	天然醸造丸大豆しょうゆ	熊本県	こいくちしょうゆ
合資会社釜田醸造所	マルカマ醤油 蔵一番	熊本県	こいくちしょうゆ
大分醤油協業組合	フンドーキンこいくち紅	大分県	こいくちしょうゆ
ヤマサ醤油株式会社	ヤマサうすくちしょうゆ	千葉県	うすくちしょうゆ
ヒゲタ醤油株式会社	特選うすくちしょうゆ	千葉県	うすくちしょうゆ
有限会社児玉醤油	マルタマ うすくち	広島県	うすくちしょうゆ
盛田株式会社小豆島工場	マルキンうすくち	香川県	うすくちしょうゆ
金大醤油株式会社	搾りたて「うすくち醤油」	香川県	うすくちしょうゆ
福岡県醤油醸造協同組合	ふくおか	福岡県	うすくちしょうゆ
合資会社吉本味噌醤油醸造元	水前寺醤油	熊本県	うすくちしょうゆ
大分醤油協業組合	フンドーキン特級 うすくち醤油	大分県	うすくちしょうゆ
山川醸造株式会社	新桶初たまり	岐阜県	たまりしょうゆ
内池醸造株式会社	キッコーツル 超特選再仕込醤油	福島県	さいしこみしょうゆ
静岡県産醤油株式会社	うめえぞ これは	静岡県	さいしこみしょうゆ
末廣醤油株式会社	播州龍野 再仕込み さしみ醤油	兵庫県	さいしこみしょうゆ
盛田株式会社小豆島工場	マルキンさしみ	香川県	さいしこみしょうゆ
ナカマル醤油醸造元	沖ノ島あまくち	福岡県	さいしこみしょうゆ
福岡県醤油醸造協同組合	ふくおか	福岡県	さいしこみしょうゆ
合資会社緑屋本店	蘭	熊本県	さいしこみしょうゆ

別表9 雑誌「醤油の研究と技術」の主な内容

巻号	区分	表題 著者
第47巻 第2号	技術解説	日本醤油産業におけるグローバル化のダイナミック・ケイパビリティ 野間口隆郎
		全国醤油品評会を振り返って(4) 水村津与志
	醤油業界 トピックス	食品表示法に基づく自主回収の届出について 加藤裕久
		食品添加物の不使用表示に関するガイドライン検討会について 加藤裕久
	市場情報	家計調査報告から見た2020年の調味料市場の動向 般若攝也
	醸造機器基礎講座	第四回 製麹装置の空調, 制御 西村直純, 久岡玲子
	私のしょうゆ造り	醤油醸造よもやま話 その6, 7 野田義治
工場紹介	福岡県醤油醸造協同組合 井澤圭史	

	醤油の地域性	伊勢湾・三河湾を囲むたまりしょうゆ・しろしょうゆ文化圏 宇都宮由佳
第 47 卷 第 3 号	研究報文	醤油製造用木桶保有数の全国調査 2020 福留奈美, 松本秀樹
	技術解説	全国味噌鑑評会について 小川由高
	技術情報	醤油の成分値調整と新規製造法 横山勉
	醤油業界 トピックス	「食品表示基準 Q&A」の一部改正について 加藤裕久
		新たな遺伝子組換え表示制度に関する新たな公定検査法の概要について 加藤裕久
		令和 3 年度 日本醸造協会「醸造技能者表彰」受賞 稲谷久雄
		第 48 回全国醤油品評会速報 水村津与志
	輸出事業紹介	当社の輸出事業の取り組みについて -株式会社ヤマト醤油味噌- 山本晴一
	醸造機器基礎講座	第五回 その他装置（発酵、圧搾、火入れ、ろ過設備） 西村直純, 久岡玲子
	私のしょうゆ造り	醤油醸造よもやま話 その 8, 9 野田義治
	工場紹介	香川県醤油醸造協同組合 徳地脩, 藤谷典志
醤油の地域性	“つゆ”や“だししょうゆ”をしょうゆ代わりに使う東北地方 舘博	
	濃口しょうゆが主体の関東地方 舘博	
第 47 卷 第 4 号	技術解説	全国新酒鑑評会について 山田修
	醤油品評会 受賞者紹介	第 48 回農林水産大臣賞；福岡県醤油醸造協同組合，日本醤油工業株式会社，佐伯醤油有限会社，有限会社今野醸造，菱太産業株式会社
	醤油業界 トピックス	野田義治氏 令和 3 年度「日本醸造学会功績賞」受賞 加藤裕久
		醤油業界の輸出拡大のための全醬工連として初の海外見本市に出展（ANUGA2021/ドイツ・ケルン） 八尋猛
	私のしょうゆ造り	醤油醸造よもやま話 その 10 野田義治
	工場紹介	中国醤油醸造協同組合 兼定幹己
	醤油の地域性	紀伊半島と小豆島のしょうゆづくり 福留奈美
		甲信越と静岡のしょうゆづくり 福留奈美
		第 89 回醤油研究発表会概略
	第 89 回醤油研究発表会講演要旨集	
第 48 卷 第 1 号	新年にあたり	混迷のときこそ一歩前へ 春見隆文
	総説	麹菌における細胞融合と不和合性の制御メカニズム 丸山潤一
	日本醤油技術賞 授賞論文	<i>Zygosaccharomyces rouxii</i> のゲノム解析 茂木亮介, 渡部潤, 上原健二, 茂木喜信
		醤油醸造における大豆アレルゲンの分解・除去機構の解明 眞岸範浩, 古林万木夫, 谷内昇一郎
	技術情報	国内外における減塩関連政策と減塩しょうゆの開発動向 糸日谷陽一
醤油の原料事情と原料原産地表示 稲谷久雄, 加藤裕久		
醤油品評会 受賞者紹介	第 48 回農林水産省大臣官房長賞 5 社；ヒガシマル醤油株式会社，川中醤油株式会社，合資会社亀兵商店，橋本醤油株式会社，キッコーマン食品株式会社野田工場	

	輸出事業紹介	熊本の食文化を発信できる会社 ー株式会社フンドーダイー 山村脩
	醸造機器基礎講座	第六回（最終回） 制御およびシステム 西村直純, 久岡玲子
	工場紹介	大野醤油醸造協業組合 上村和宏
	醤油の地域性	山口と九州の甘いしょうゆの形成要因 宇都宮由佳

別表 10 令和 3 年市販醤油分析値（最高値、最低値、平均値）

品種	銘柄	表示				ポ ー メ	食 塩	全 窒 素	還 元 糖	ア ル コ ー ル	滴定酸度		p H	無 塩 可 溶 性 固 形 分	色 度
		等 級	製 造 方 式	保 存 料							I	II			
こ い く ち	A	特 級	本 醸 造	-	最高値	21.01	16.61	1.60	2.79	2.21	11.53	9.85	4.77	18.8	11
					最低値	20.96	16.59	1.60	2.46	2.20	11.51	9.64	4.75	18.7	7
					平均値	20.99	16.60	1.60	2.63	2.21	11.52	9.75	4.76	18.7	9
	B	特 級	本 醸 造	-	最高値	20.83	16.93	1.56	2.37	2.22	11.57	9.69	4.74	18.0	15
					最低値	20.74	16.66	1.55	2.31	2.16	11.55	9.48	4.72	17.6	11
					平均値	20.79	16.80	1.56	2.34	2.19	11.56	9.59	4.73	17.8	13
	C	特 級	本 醸 造	-	最高値	20.99	16.42	1.58	3.04	2.34	11.30	10.06	4.78	18.9	11
					最低値	20.95	16.36	1.57	2.81	2.31	11.10	9.79	4.77	18.9	11
					平均値	20.97	16.39	1.58	2.93	2.33	11.20	9.92	4.77	18.9	11
	D	特 級	本 醸 造	-	最高値	20.63	16.64	1.61	2.63	2.75	12.20	10.58	4.79	18.3	11
					最低値	20.44	16.63	1.58	2.18	2.25	11.39	10.12	4.73	17.8	11
					平均値	20.54	16.64	1.59	2.41	2.50	11.80	10.35	4.76	18.1	11
E	上 級	本 醸 造	-	最高値	20.78	17.40	1.39	3.03	2.52	9.97	8.81	4.76	17.1	14	
				最低値	20.76	17.26	1.37	2.97	2.50	9.92	8.79	4.74	17.0	11	
				平均値	20.77	17.33	1.38	3.00	2.51	9.95	8.80	4.75	17.0	13	
う す く ち	F	特 級	本 醸 造	-	最高値	20.97	18.86	1.19	1.96	2.88	8.96	7.60	4.83	15.0	34
					最低値	20.74	18.71	1.19	1.45	2.64	8.05	7.20	4.73	14.3	33
					平均値	20.86	18.79	1.19	1.71	2.76	8.51	7.40	4.78	14.6	34
	G	特 級	本 醸 造	-	最高値	21.33	18.68	1.18	4.37	3.01	7.86	7.40	4.88	16.0	37
					最低値	21.31	18.50	1.17	4.18	3.00	7.80	7.05	4.78	15.9	35
					平均値	21.32	18.59	1.18	4.28	3.01	7.83	7.23	4.83	15.9	36
	H	特 級	本 醸 造	-	最高値	21.39	18.61	1.21	4.02	2.43	8.16	7.55	5.02	15.6	40
					最低値	21.28	18.61	1.20	3.29	2.41	7.37	7.35	4.80	15.4	37
					平均値	21.34	18.61	1.20	3.66	2.42	7.76	7.45	4.91	15.5	39
	I	特 級	本 醸 造	-	最高値	21.66	19.02	1.19	4.28	2.25	7.87	7.60	4.80	15.3	37
					最低値	21.55	18.98	1.18	4.09	2.15	7.61	7.14	4.78	15.2	37
					平均値	21.61	19.00	1.19	4.19	2.20	7.74	7.37	4.79	15.3	37

別表 11 品質管理責任者等専門講習会課題、講師等

ア 品質管理専門講習会

a 新任者向け

(第 1 回) 令和 3 年 9 月 16 日 10 時～10 月 7 日 17 時まで

(第 2 回) 令和 4 年 2 月 17 日 10 時～3 月 9 日 17 時まで

動画番号	研 修 課 題	講 師・担 当
	理事長挨拶とガイダンス	

①		醤油業界の現状と課題	専務理事 般若摂也
②	(1)	しょうゆに関する関連法規 その1	理事 松本秀樹
	(2)	しょうゆに関する関連法規 その2	
③	(1)	認証の技術的基準の解説 (1)	次長 水村津与志
	(2)	認証の技術的基準の解説 (2)	
④	(1)	実務に役立つ!しょうゆの品質管理分析 (1)	製品検査員 関根悠太
	(2)	実務に役立つ!しょうゆの品質管理分析 (2)	
⑤		しょうゆのラベル表示	常務理事 加藤裕久

b 継続者向け

令和4年1月18日(火)10時~2月4日(金)17時まで

動画番号	研修課題	講師・担当
	理事長挨拶とガイダンス	
①	最新業界事情	理事 松本秀樹
②	品質管理の実施方法	理事 松本秀樹
③	格付の適切な実施	理事 松本秀樹
④	今日からできる!しょうゆの品質管理分析	製品検査員 関根悠太

イ 格付技能研修会

a 新任者向け

令和3年11月26日(金)10時~12月15日(水)17時まで

動画番号	研修課題	講師・担当
	理事長挨拶とガイダンス	
①	しょうゆのJAS格付の関係法規	理事 松本秀樹
②	格付責任者と格付検査担当者の業務について	次長 水村津与志
③	(1) JAS項目の測定方法 (1)	製品検査員 関根悠太
	(2) JAS項目の測定方法 (2)	
	(3) JAS項目の測定方法 (3)	

b 継続者向け

令和3年7月15日10時~7月27日17時まで

動画番号	研修課題	講師・担当
	理事長挨拶とガイダンス	
①	業界の現状と課題	専務理事 般若摂也
②	JAS法、認証基準、規格の変更点	理事 松本秀樹
③	格付の測定方法のポイント	製品検査員 関根悠太

別表12 表示指導員名簿

組合	表示指導員	組合	表示指導員	組合	表示指導員	組合	表示指導員
北海道	石川一雄	中央	森 明夫	京都	松本 哲	小豆島	中村郁恵

青森	岩崎千穂	山梨	村松俊輔	中央	大橋ユキ	愛媛	村岡良美
岩手	吉田隆一	長野	戸井田仁一	兵庫	森川君枝	高知	甲藤幹代
宮城	佐々木智美	新潟	日山成子	龍野	森川君枝	福岡	中尾俊雄
秋田	田村岳大	富山	玉島めぐみ	奈良	鈴木智博	佐賀	下村里美
山形	槇みづき	石川	松岡清司	和歌山	加納 誠	長崎	吉田功一
福島	鈴木由里子	福井	宮越富子	鳥取	岡 澈哉	熊本	國本千恵
茨城	八尋 猛	岐阜	山川晃生	島根	萬波由紀	大分	福島和紀
栃木	高野浩枝	静岡	鈴木邦明	岡山	山崎美和	宮崎	馬場雅幸
群馬	會田春樹	静岡	西條 喬	広島	二川裕一	鹿児島	古河 洋
埼玉	奥澤洋平	愛知	木全由美	山口	本田由美子	鹿児島	狩行 勲
千葉	田中秀夫	三重	望月 豊	徳島	山本澄人		
千歳	田中秀夫	滋賀	深尾浩平	香川	榊原 優		

別表 13 ブロック別表示指導員研修会

ブロック	開催日	場所 又は開催方法	表示指導員	本部出席者
北海道 東北	令和3年7月13日	Web会議	石川一雄、岩崎千穂、吉田隆一、佐々木智美、田村岳大、槇みづき、鈴木由里子	加藤、松本
関東 甲信越	令和3年7月26日	Web会議	八尋 猛、高野浩枝、會田春樹、奥澤洋平、田中秀夫、稲谷久雄、村松俊輔、日山成子、鈴木邦明	全員
東海 北陸	令和3年7月15日	Web会議	玉島めぐみ、松岡清司、宮越富子、山川晃生、木全由美、望月 豊	加藤、松本
近畿	令和3年7月14日	Web会議	深尾浩平、森川君枝、森川君枝、鈴木智博、加納 誠	加藤、松本
中国	令和3年7月27日	Web会議	岡 澈哉、萬波由紀、山崎美和、二川裕一、本田由美子	加藤、松本
四国	令和3年7月28日	Web会議	山本澄人、榊原 優、中村郁恵、村岡良美、甲藤幹代	加藤、松本
九州	令和3年7月9日	熊本県みそ醤油工業 協同組合 5F 会議室	中尾俊雄、下村里美、吉田功一、國本千恵、福島和紀、馬場雅幸、古河 洋	加藤、松本

別表 14 外部委員等

① 外部委員

令和3年6月, 11月	日本醸造協会理事会	小熊哲哉
令和3年6月(メール会議)	日本醸造協会醸造技能者選考委員会	館 博
令和3年6月(メール会議)	日本醸造協会技術賞選考委員会	館 博
毎月メール会議	日本醸造協会編集会議	館 博

令和3年4月23日、8月31日 日、令和4年3月29日	総研研究会幹事会（Web開催）	松本秀樹
令和3年7月2日	総研研究会醸造食品部会総会・第11回講演会（清酒関連）	松本秀樹
令和3年11月15日	第12回講演会（日本食品成分表）	松本秀樹
令和3年11月19日	第1回オンライン見学会（ワイン；白百合醸造（株））	松本秀樹
令和4年2月25日	第2回オンライン見学会（しょうゆ；福岡県醤油醸造協同組合）	松本秀樹
令和3年4月21日、12月2日	食品産業センター食品表示対策委員会	加藤裕久

② 品評会及び鑑評会審査員

令和3年10月7日	第68回本場仙台味噌・醤油鑑評会	水村津与志
令和3年10月8日	令和3年度山形県醤油味噌品評会	水村津与志

③ JAS

令和4年1月13日	JAS協連絡協議会	関根悠太
令和4年3月31日	JAS法改正案の説明会	松本秀樹
令和3年5月11日 令和4年3月11日	JAS協理事会	春見隆文、般若攝也
令和3年6月15日 （書面評決）	JAS協総会	松本秀樹

④ その他

名 称	開催年月日	場所等	出席者
令和3年度科学技術基礎調査等委託事業「日本食品標準成分表の改訂に向けた食品成分情報取得強化のための調査」の一般競争入札における技術審査	令和3年5月14日	Web 会議形式	加藤裕久
弾力的運用に関する消費者庁との打合せ	令和3年5月25日	Web 会議	加藤裕久 松本秀樹 葛西浩一 水村津与志
弾力的運用に関する消費者庁との打合せ	令和3年10月15日	Web 会議	加藤裕久
農林水産省をホストとしたコンテナ需給逼迫問題に関するヒアリング	令和3年11月18日	Web 会議	加藤裕久
第2回国際海上コンテナ輸送の需給逼迫問題に関する情報共有会合	令和4年1月14日	Web 会議	加藤裕久

附 属 明 細 書

2021 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

2022 年 5 月

一般財団法人日本醤油技術センター

IV 計 算 書 類

貸 借 対 照 表

2022年3月31日現在

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金	40,816	116,188	△ 75,372
普通預金	14,068,523	14,093,579	△ 25,056
郵便振替口座	2,646,957	2,602,319	44,638
定期預金	3,626,000	5,915,000	△ 2,289,000
棚卸資産	2,745,864	0	2,745,864
仮払金	160,055	107,685	52,370
未収金	3,798,976	4,125,581	△ 326,605
前払金	300,960	23,048	277,912
流動資産合計	27,388,151	26,983,400	404,751
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
定期預金	18,000,000	18,000,000	0
基本財産合計	18,000,000	18,000,000	0
(2) 特定資産			
特別積立引当資産	15,000,000	15,000,000	0
減価償却引当資産	6,504,000	6,085,000	419,000
退職給付引当資産	21,330,000	19,460,000	1,870,000
特定資産合計	42,834,000	40,545,000	2,289,000
(3) その他固定資産			
什器備品	246,422	400,972	△ 154,550
その他固定資産合計	246,422	400,972	△ 154,550
固定資産合計	61,080,422	58,945,972	2,134,450
資産合計	88,468,573	85,929,372	2,539,201
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	1,591,478	4,567,905	△ 2,976,427
未払法人税等	70,000	70,000	0
未払消費税等	341,600	395,800	△ 54,200
預り金	81,000	71,200	9,800
前受金	19,700	24,000	△ 4,300
流動負債合計	2,103,778	5,128,905	△ 3,025,127
2. 固定負債			
退職給付引当金	21,330,000	19,460,000	1,870,000
固定負債合計	21,330,000	19,460,000	1,870,000
負債合計	23,433,778	24,588,905	△ 1,155,127
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
2. 一般正味財産			
一般正味財産	65,034,795	61,340,467	3,694,328
(うち基本財産への充当額)	(18,000,000)	(18,000,000)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(21,504,000)	(21,085,000)	(419,000)
正味財産合計	65,034,795	61,340,467	3,694,328
負債及び正味財産合計	88,468,573	85,929,372	2,539,201

正味財産増減計算書

2021年4月1日から2022年3月31日まで

(単位：円)

科目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	1,130	1,590	△ 460
基本財産受取利息	1,130	1,590	△ 460
特定資産運用益	340	343	△ 3
特定資産受取利息	340	343	△ 3
事業収益	53,335,371	50,863,760	2,471,611
JAS検査手数料収益	5,003,671	6,385,330	△ 1,381,659
JAS認証収益	26,148,250	21,433,250	4,715,000
技術情報雑誌収益	4,767,025	4,886,950	△ 119,925
研究発表会収益	366,000	0	366,000
研修講習収益	2,493,500	4,174,500	△ 1,681,000
登録収益	489,000	432,000	57,000
標準色等頒布収益	14,067,925	13,551,730	516,195
運営負担金	38,000,000	35,400,000	2,600,000
運営負担金	38,000,000	35,400,000	2,600,000
雑収益	55,350	58,546	△ 3,196
受取利息	347	1,213	△ 866
JAS証紙収益	47,912	56,233	△ 8,321
雑収益	7,091	1,100	5,991
経常収益計	91,392,191	86,324,239	5,067,952
(2) 経常費用			
事業費	87,627,863	90,492,273	△ 2,864,410
役員報酬	12,840,000	12,840,000	0
給与手当	14,420,985	15,735,142	△ 1,314,157
臨時雇賃金	294,500	420,420	△ 125,920
退職給付費用	1,870,000	1,410,000	460,000
福利厚生費	3,844,783	4,019,592	△ 174,809
会議費	209,335	11,796	197,539
旅費交通費	2,175,696	1,460,064	715,632
通信運搬費	1,439,572	1,514,191	△ 74,619
消耗什器備品費	72,107	834,935	△ 762,828
消耗品費	3,529,622	7,078,991	△ 3,549,369
図書費	278,527	224,670	53,857
修繕費	1,415,865	1,319,842	96,023
印刷製本費	5,327,520	3,990,140	1,337,380
借室料	6,771,600	6,771,600	0
賃借料	5,777,588	4,571,634	1,205,954
保険料	48,880	48,880	0
諸謝金	860,835	864,772	△ 3,937
租税公課	849,620	973,672	△ 124,052
支払負担金	1,074,100	1,243,100	△ 169,000
支払助成金	200,000	0	200,000
支払手数料	1,089,696	1,872,752	△ 783,056
委託費	22,669,300	22,346,081	323,219
雑費	149,183	479,649	△ 330,466
減価償却費	418,549	460,350	△ 41,801
経常費用計	87,627,863	90,492,273	△ 2,864,410
当期経常増減額	3,764,328	△ 4,168,034	7,932,362

2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	3,764,328	△ 4,168,034	7,932,362
法人税、住民税及び事業税	70,000	70,000	0
当期一般正味財産増減額	3,694,328	△ 4,238,034	7,932,362
一般正味財産期首残高	61,340,467	65,578,501	△ 4,238,034
一般正味財産期末残高	65,034,795	61,340,467	3,694,328
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	65,034,795	61,340,467	3,694,328

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

「公益法人会計基準」（平成20年4月11日令和2年5月15日最終改正 内閣府公益認定等委員会）を採用している。

(1) 固定資産の減価償却の方法

什器備品……………定率法による減価償却を実施している。

ソフトウェア……………定額法による減価償却を実施している。

(2) 引当金の計上基準

退職給付引当金……………期末退職給付の要支給額に相当する金額を計上している。

(3) リース取引の処理方法

リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっている。

(4) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式としている。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
定期預金	18,000,000	0	0	18,000,000
小 計	18,000,000	0	0	18,000,000
特定資産				
特別積立引当資産	15,000,000	0	0	15,000,000
減価償却引当資産	6,085,000	419,000	0	6,504,000
退職給付引当資産	19,460,000	1,870,000	0	21,330,000
小 計	40,545,000	2,289,000	0	42,834,000
合 計	58,545,000	2,289,000	0	60,834,000

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
基本財産				
定期預金	18,000,000	0	(18,000,000)	0
小 計	18,000,000	0	(18,000,000)	0
特定資産				
特別積立引当資産	15,000,000	0	(15,000,000)	0
減価償却引当資産	6,504,000	0	(6,504,000)	0
退職給付引当資産	21,330,000	0	0	(21,330,000)
小 計	42,834,000	0	(21,504,000)	(21,330,000)
合 計	60,834,000	0	(39,504,000)	(21,330,000)

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

(単位:円)

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
什器備品	35,492,314	35,245,892	246,422
ソフトウェア	324,000	324,000	0
	35,816,314	35,569,892	246,422

附属明細書

1. 基本財産及び特定資産の明細

財務諸表に対する注記2に記載している。

2. 引当金の明細

(単位:円)

科 目	期首残高	当期増加額	当期減少額		当期末残高
			目的使用	その他	
退職給付引当金	19,460,000	1,870,000	0	0	21,330,000

正味財産増減計算書（予算実績）

2021年4月1日から2022年3月31日まで

（単位：円）

科目	予算額	決算額	差額
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	4,000	1,130	△ 2,870
基本財産受取利息	4,000	1,130	△ 2,870
特定資産運用益	1,000	340	△ 660
特定資産受取利息	1,000	340	△ 660
事業収益	56,190,800	53,335,371	△ 2,855,429
JAS検査手数料収益	5,710,000	5,003,671	△ 706,329
JAS認証収益	27,220,000	26,148,250	△ 1,071,750
技術情報雑誌収益	4,850,800	4,767,025	△ 83,775
研究発表会収益	1,080,000	366,000	△ 714,000
研修講習収益	2,900,000	2,493,500	△ 406,500
登録収益	430,000	489,000	59,000
標準色等頒布収益	14,000,000	14,067,925	67,925
運営負担金	38,000,000	38,000,000	0
運営負担金	38,000,000	38,000,000	0
雑収益	75,000	55,350	△ 19,650
受取利息	2,000	347	△ 1,653
JAS証紙収益	70,000	47,912	△ 22,088
雑収益	3,000	7,091	4,091
経常収益計	94,270,800	91,392,191	△ 2,878,609
(2) 経常費用			
事業費	99,026,000	87,627,863	△ 11,398,137
役員報酬	12,840,000	12,840,000	0
給与手当	14,030,000	14,420,985	390,985
臨時雇賃金	270,000	294,500	24,500
退職給付費用	3,280,000	1,870,000	△ 1,410,000
福利厚生費	4,075,000	3,844,783	△ 230,217
会議費	1,410,000	209,335	△ 1,200,665
旅費交通費	5,278,000	2,175,696	△ 3,102,304
通信運搬費	1,420,000	1,439,572	19,572
消耗什器備品費	510,000	72,107	△ 437,893
消耗品費	8,371,000	3,529,622	△ 4,841,378
図書費	210,000	278,527	68,527
修繕費	1,200,000	1,415,865	215,865
印刷製本費	5,487,000	5,327,520	△ 159,480
借室料	6,770,000	6,771,600	1,600
賃借料	6,470,000	5,777,588	△ 692,412
保険料	30,000	48,880	18,880
諸謝金	1,324,000	860,835	△ 463,165
租税公課	949,000	849,620	△ 99,380
支払負担金	1,450,000	1,074,100	△ 375,900
支払助成金	200,000	200,000	0
支払手数料	1,000,000	1,089,696	89,696
委託費	21,915,000	22,669,300	754,300
雑費	137,000	149,183	12,183
減価償却費	400,000	418,549	18,549
経常費用計	99,026,000	87,627,863	△ 11,398,137
当期経常増減額	△ 4,755,200	3,764,328	8,519,528

2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	△ 4,755,200	3,764,328	8,519,528
法人税、住民税及び事業税	70,000	70,000	0
当期一般正味財産増減額	△ 4,825,200	3,694,328	8,519,528
一般正味財産期首残高	61,340,467	61,340,467	0
一般正味財産期末残高	56,515,267	65,034,795	8,519,528
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	56,515,267	65,034,795	8,519,528

V 監査報告書

一般財団法人日本醤油技術センター
代表理事 春見隆文様

2022年5月6日

監事 檜垣周作 ㊟

監事 河盛幹雄 ㊟

私たち監事は、2021年4月1日から2022年3月31日までの事業年度の理事の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

1. 監査の方法及びその内容

各監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からの職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及びその附属明細書について検討いたしました。

2. 監査意見

(1) 事業報告等の監査結果

- 一 事業報告は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- 二 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実
は認められません。

(2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

計算書類及びその附属明細書は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認めます。

以上

VI 役員等名簿

一般財団法人 日本醤油技術センター

2022年3月31日現在

役職名	常勤・非常勤の別	氏名	団体等役職名
理事長	非常勤	春 見 隆 文	—
専務理事	常勤	般 若 攝 也	日本醤油協会 専務理事
常務理事	常勤	加 藤 裕 久	日本醤油協会 参与
理事	常勤	松 本 秀 樹	—
理事	非常勤	吉 田 企 世 子	女子栄養大学名誉教授
理事	非常勤	舘 博	東京農業大学名誉教授
理事	非常勤	高 津 伊 兵 衛	株式会社にんべん 代表取締役社長
理事	非常勤	堀 切 功 章	キッコーマン株式会社 代表取締役会長CEO
理事	非常勤	濱 口 道 雄	ヤマサ醤油株式会社 代表取締役会長
監事	非常勤	檜 垣 周 作	株式会社JFLAホールディングス 代表取締役社長
監事	非常勤	河 盛 幹 雄	大醬株式会社代表取締役社長
評議員	非常勤	前 橋 健 二	東京農業大学教授
評議員	非常勤	大 木 美 智 子	一般財団法人消費科学センター 代表理事
評議員	非常勤	中 尾 治 廣	元農林水産省東京農林水産消費技術センター所長
評議員	非常勤	島 崎 眞 人	一般社団法人 日本農林規格協会 専務理事
評議員	非常勤	朝 田 仁	ヤマキ株式会社 取締役上席執行役員
評議員	非常勤	加 瀬 泰 美	ヒゲタ醤油株式会社 代表取締役社長
評議員	非常勤	淺 井 昌 信	ヒガシマル醤油株式会社 代表取締役会長
評議員	非常勤	三 林 憲 忠	ヤマモリ株式会社 代表取締役社長
評議員	非常勤	正 田 隆	正田醤油株式会社 代表取締役社長
評議員	非常勤	宮 島 清 一	宮島醤油株式会社 代表取締役社長
評議員	非常勤	大 関 恒 雄	醤油PR協議会 理事

